

令和元年度 第3回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日時： 令和元年7月25日(木)

9:30 ~ 12:00

場所： 御殿場市林業会館 第1研修室

1 出席者

〔御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員〕 ※敬称略

芹澤 直己、岩淵 貴司、渡邊 恵子、児島 洋美、小宮山 なほみ、鎌野 順子、刈山 祐江、
勝亦 恵美子、立道 佳之、藤田 明代、芹澤 知輝、鈴木 峻介、勝又 洋平、勝又 美絵
計 14名

〔事務局(市民協働課)〕

田代課長、浅野統括、小長井

2 公開提案会 [9:30~10:15]

〔内容〕

令和元年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金の審査・選考にあたり、各申請団体のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会」の委員14名を審査員として、今回申請のあった市民提案事業1事業(新規1事業)の審査を実施した。

【市民提案事業】

- (1) 事業名： 富士山麓の生物多様性保全のための調査・啓発活動〔新規(1年目)〕
団体名： 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会
行政担当課： 環境課

〔質疑応答〕

- (委員) 団体の構成について、役員数が28名、会員数が45名と、役員数が非常に多い印象を受けたが、どのような役割となっているのか。
- (団体) 団体の業務の範囲が「森づくり」から「木工製品の作製」など多岐に渡っている。毎月役員による打ち合わせを行っているが、活動のコミュニケーションを良くしていくために必要な人数。
- (委員) 発表資料の中で当市における環境面での課題として「種子法廃止による固有種への影響」を上げているが、これはどういったものか。
- (団体) 種子法の廃止は、作物のゲノム編集がこれまでとは異なり届け出制になる点で、生物多様性の面で非常に大きな問題となる。全国的に種子の開発・生産を奨励する趣旨の県条例が制定されるなどの動きが広がっている。
- (委員) 現地調査をして冊子を作る計画とのことだが、富士山麓のどの地域を、どの程度の日数で、どの程度の人員で調査する計画なのか。

- (団体) 既に団体として、平成 24(2012)年度から富士山麓地域をブロックごとに調査し、冊子を作成している。富士山東麓(御殿場市、裾野市、小山町地域)のほか、富士山北麓も調査を実施してきた。1 ブロックについて半年程度の期間をかけて調査を実施し、その結果を冊子としてまとめている。今年も 1 月頃から現地調査に入っており、校正も含めて 9~10 月頃には冊子を発行したい考え。
- (委員) 環境教育イベントは具体的にどのような時期に、どうやって実施するのか。
- (担当課) 団体でも各種環境イベントを実施しており、その中で作成した冊子を活用していく。また市主催のイベントでも、次年度以降にはなるが、活用していく。
- (委員) 9~10 月頃に冊子の作成とのことなので、10 月以降の環境系のイベント(ビオトープの着工など)における周知など、環境下で進める SDGs の取り組みにも繋がると考えるため、発信力のある他の団体と連携して上手く周知して欲しい。
- (団体) はい。
- (委員) 仮に最長 3 年間の補助金による支援が終わった後、事業をどのように継続していく考えなのか。例えば企業との連携などは考えているのか。
- (団体) 特定非営利活動法人であり、資金確保には継続的に取り組んでいるが、厳しい。
- (委員) SNS による情報発信など、行政と協力して進めてはどうか。
- (団体) HP により活動内容等の発信は行っている。
- (委員) 生物多様性保全の活動について、国からの努力目標として定められており、今回協働により進めていきたいとの説明があったが、こういった取り組みについて、団体が財政的に厳しい中で、市も「市の財産」として継続的な支援・協力を行っていく必要があるのでは。
- (委員) 今年度の事業において、具体的に団体と市の担当課がどのように協働をしていくのか。
- (担当課) 市内に蔓延る外来種等の調査・研究を相互に連携して行い、協力して冊子を作成するとともに、その結果を基礎資料として将来的な生物多様性保全のための計画策定等に活用していきたい。また、絶滅危惧種などは、市としても周知を行っていかねばと考えるため、広報や HP を通じて周知を図ってきたい。
- (委員) 例えば、調査・研究について、行政担当課が同行して行うことを考えているのか。
- (団体) 現在は特に考えていない。
- (委員) 作成する冊子について、業者に依頼して印刷製本を行うのではなく、行政担当課が市の機材を利用して作成することはできないのか。
- (担当課) 冊子は植物の写真等を多用しており、品質の面で市の印刷機による作成は難しいが、今回計画している作成部数で足りない部分などは、市で協力してやっていきたい。
- (委員) この事業の成果として、「市内小中学校の環境教育としての資料として活用できる。」としている。是非、まずは「市内」に向けた取り組みとなるように、教育委員会とも連携して実施してほしい。
- (担当課) はい。

3 選考会 [10:35 ~11:15]

[内容]

公開提案会でのプレゼンテーション及び質疑応答の状況、申請書の内容、及び公開提案会を受けての採点結果(順位付)、審査員からのコメント等を踏まえ、各事業の内容について協議し、補助金交付の可否や金額の満額・減額について決定。

市民提案事業 1 事業、はじめの一步事業 1 事業について、いずれも満額で承認と決定した。

※市民提案事業 1 事業は条件を付しての承認

【市民提案事業】

- (1) 事業名： 富士山麓の生物多様性保全のための調査・啓発活動〔新規(1年目)〕
団体名： 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会
行政担当課： 環境課
申請額： 300,000 円

[コメント(審査用紙自由記載欄)]

- ・今後の活動に期待します。
- ・既に行っている事業なのが気になる。この補助金を交付されて新しく何をするのが具体的ではない。冊子を作るだけの補助金になっている。
- ・富士山周辺を巡りながら(トレッキング、ハイキング等)ツアー形式で学ぶ場を設けると更に発展性がある。
- ・委託事業ではなく、協働事業という点を意識して取り組んでいただければと思います。
- ・市内小中学校の協力をどれだけ得られるかが事業効果を左右すると感じた。
- ・生物多様性保全は非常に重要だと思うので、行政と連携して普及啓発に努めてください。
- ・冊子の見本がなかったので、具体的にどのような冊子なのか想像できなかったのが残念です。
- ・資金計画に具体性がない(調査費などの部分)、事業の必要性は理解できた。
- ・大変すばらしい活動だと思います。市との協働を通じて経費削減や収入源を確保するなどの持続の取り組みもお願いします。
- ・具体的な計画を示してほしかった。
- ・内容は問題ないが、発表がいまいちだった。
- ・結果がすぐに出にくい地味な活動だと思う。活動は絶対に必要だと思う。植物を通じて郷土愛に繋がると思う。

[協議内容]

- (委員) 予算書を見ると、補助金のほとんどが冊子を作るために使用されている。もう少し監修に力を入れるべきでは。また、印刷は市担当課でも品質は落ちるが可能なので、対応を検討しては。現在の計画では「冊子を作るだけ」ととらえられるので、このような条件を付すべきでは。
- (委員) 冊子だけでは配布して終わってしまうので、いつも見ることができるポスターやカレンダーのような形のを学校に掲示していただければ、子ども達にも分かりやすいのでは。
- (委員) これまでに団体が作ってきた冊子を見たことがあるが、内容が専門的かつ高度で、子ども達には難しいのでは。条件を付けるのであれば、もっと教育に生かせるような監修をしてもらっ

て、子供向けのものを作ってもらうようにすべきでは。

- (委員) 団体が、これまでも様々な機関等から補助金を受けて活動してきているため、視点があまり市内に向いていない様に感じた。事業計画、また成果において「市内小中学生への環境教育」としているのだから、今回の協働事業ではここを主軸に考えてほしい。
- (委員) 冊子を作って終わり、ではなく、調査・研究の結果を生かした環境教育に取り組んでほしい。そのため、データ化したものを2次・3次資料に活用できるようにしてほしい。
- (委員) 印刷予定部数が1,000部だが、これまでに作成した冊子はどのように使用・配布されているのか。(市内の全小中学校には行き渡っていない?)
- (委員) 質疑応答時にも確認したとおり、計画に記載されていることはしっかりと実施していただく。
- (委員) 3年間の計画を立てているが、具体的にどのブロックについて今後調査・研究していくのか。2年目は御殿場市と明記されているため、情報発信等特に強化されるのであれば、協働も進んでいくのでは。
- (委員) これまでにどのような視点で冊子を作ってきて、今後作成する冊子がどのようなものになるのかも確認したかったが、できなかった。
- (委員) 1年目、2年目の積み重ねの上に集大成として3年目となるようなものでないと楽しみがない。ただ毎年、調査・研究の結果を冊子として纏めるだけでは、単に冊子を作るためにお金が見えてしまう。ステップアップがほしい。また、これまでの冊子を何部作成し、どのように配布したのかが分かる資料もほしかった。
- (委員) 団体の活動としてこれまで6冊の冊子を作ってきたとの説明があったが、あまり知られていないのであれば、単なる自己満足で終わってしまう。もっと広く知ってもらうことが重要。
- (委員) 市主催のイベントでは、次年度以降にこの結果を活用していくとの説明があったが、様々なイベントにおいて結果を活用していくことは、今年度も可能だと思う。
- (委員) 小中学生にはこういった冊子を配布するよりも、実際の自然を学ぶことができるイベント等に参加してもらった方が効果が出るのでは。
- (委員) 子供達が調査に同行することもできるのでは。
- (委員) 市担当課の職員も調査に同行することも重要では。
- (委員) 交付金額は満額とするが、事業計画・成果に記載のとおり、市内小中学生への環境教育としての資料活用を進めていただくよう意見を付して承認することでよろしいか。
- (委員) 異議なし。

〔収支予算に係る指摘・意見〕 特になし

〔選考結果〕

交付の可否: 可 ※ただし下記の条件を遵守すること

交付の条件: 事業計画・成果に記載のとおり、市内小中学生に向けた環境教育として資料活用を進めること

補助金額: 300,000円(満額)

【はじめの一步事業】

- (1) 事業名： 黒澤明監督と御殿場〔新規(1年目)〕
団体名： 御殿場黒澤明学会
行政担当課： 魅力発信課
申請額： 50,000円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・事業内容が少しわかりにくい。このないようでは補助金をもらわなくても実施できるのではないか。チラシは何に使うのか。
- ・海外(インバウンド)より多くの来訪者が期待できる。SNS等で発信をより多くし、PRしてほしい。
- ・既存団体と連携して、御殿場の魅力を発信していただきたい。
- ・黒澤明監督は御殿場の「財産」だと思うので、普及啓発に取り組んでください。
- ・市内外に発信し、地域活性に繋がるので期待したい。
- ・3人でどのような活動ができるのか伺いたかった(役割など…人間的な面での協働なのか?)
- ・頑張って御殿場の魅力を掘り起こしてほしい。
- ・是非活発に活動してください。
- ・今の時期に黒澤明監督と御殿場市との関係を記録しておくことは大切だと思う。団体が継続して活動されることを望みます。
- ・「御殿場」の発信に良いと思う。

〔協議内容〕

- (委員) 収支予算書の歳出の部で、ボランティアの食費として食糧費を計上しているが、これはどのようなボランティアなのか。
- (事務局) 調査・研究等を行うにあたって、会員とは別にお手伝いいただく方がいるため、それらの方に対する食糧費となる。
- (委員) 会員数は何名か。
- (事務局) 3名。今年の6月初めに立ち上がったばかりの団体。
- (委員) 今年の市民協働事業で「御殿場フィルムコミッション支援事業」がある。事業の内容としては関連してくると思うので、行政担当課も同じ魅力発信課となるため、連携していけるようになれば面白いと思う。
- (委員) 時期的に、今、こういった取り組みをされているのは非常に良いと思う。映画に携わった方々の年代も上がってきており、記録等を残していくためにも、取り組みに期待している。
- (委員) チラシの作成にあたっては、情報の発信だけでなく、「情報を集める」ことも意図したような形でできればよいのでは。

〔収支予算に係る指摘・意見〕 特になし

〔選考結果〕

- 交付の可否： 可
補助金額： 50,000円(満額)

4 協議事項 [11:15 ~12:00]

(1)「御殿場市市民協働型まちづくり推進指針」について

〔内容〕

今年度の課題事項として上げている「市民協働型まちづくり推進指針」の改定について、その必要性も含めて協議いただき、決定するため、指針の位置付け、内容等について再度確認した。

〔質疑・意見等〕

(委員) 内容を見るとそれほど古いとは感じないが、データとして出されているアンケート結果などが策定当時のもので、古さを感じる。アンケートが必要であれば、SNS等の項目も含めて新しい内容(世代別の状況なども含めて)に変更するべきでは。

(委員) 他市町では、アンケート結果などは指針に含めているのか。

(事務局) 藤枝市では、指針と行動計画を合わせた形で改定しているが、アンケート結果も最新のデータを掲載している。富士市は指針にはアンケート結果の掲載はなかった。

(委員) 新しいアンケート結果を基礎として、現状に合った形にするという方法もあるのでは。理念等についてはそれほど変更する必要性は感じない。

(委員) 「指針」が柱としてあって、「プラン」で補足・ブラッシュアップをしている形だと思う。その柱を変更する必要があるかどうかの話だと思うが、「市民協働型まちづくり」を考えたときに、市民が興味を持ち、様々な団体が利用しようと思っような「盛り上がっている感」がない。その背景として、指針に問題があるのか、プランで修正を図るのか、この機会に考える必要があるのでは。また、昨今SDGsの考え方も出てきたため、取り入れても良いのでは。

(委員) SDGsは、プランに反映させていくべきでは。

(委員) SDGsの目標の1つとして「パートナーシップで目標を達成しよう」という項目があり、人口減少が進む中で、効果的なまちづくりを協働によって進めていこうということが国際的にもうたわれている。指針にしる、プランにしる、SNS等の視点も含めて多少見直しをしてもよいのでは。

(委員) 時代に合わせていく、ということは必要だと思うが、現時点では判断が難しい。

(委員) 市職員の委員は指針についてある程度知っているが、特に新しく委員となった方は、指針についてよく知らないのでは。「指針」について勉強しなければ、本当に改定が必要かどうかの判断もできないのでは。

(委員) これまでの14年間、「市民協働」という言葉が頭に入ってきたことがなかった。一市民としてはこれまで情報が入ってこなかった、ということは、市民には「市民協働」は浸透していないのだと思う。

(委員) 「市民協働」というのはこれまで各地で当たり前に行われてきたことを「指針」という形に収めたもので、各地区で活発に行われてきた活動を全市的に広げていこうという考えで策定した。

(委員) 別に委員をやらせていただいている会の視察研修で、先日長野県に行ってきたが、その際、「市民協働型農園」の取り組みを目にしたり、お会いした方が食育の関係で市民協働の取り組みを進めたいと考えているなどの話を伺った。「市民協働」はそれに注目すれば多くのことが当てはまる、ということが見えてきて、非常に良い試みだと思う。

(委員) 指針は会の規約のようなもので、大本になるものだから簡単に変えるようなものでは困る。アンケートについても、行うのであれば内容を見直して意味のあるものにしていく必要がある

- (市民協働の周知の度合い、どの程度地域への貢献に意識が向いているのかなど)。
- (委員) 特に市民協働(住民協働)が活発に行われているような自治体の指針・プランがどうなっているのか、つまり「市民協働をどのようなスタイルでやっているのか」についても興味がある。
- (委員) 今年度の視察研修についても、指針の改定の有無だけではなく、「指針について勉強に行く」ということを重視して視察先を検討してはどうか。
- (委員) 現在のプランの期間が令和 3(2021)年度までとなっているのだから、アンケート等の実施についても、プランの改定を見据えた対応をする必要がある。指針については、根幹の部分はそこまで修正する必要はなく、データ等の一部を見直しては。
- (委員) 当市の指針も、策定当時は先進的な事例として、他市町の視察などを受け入れていた。当時は県内でも殆ど事例がなく、当市のオリジナリティがあるものとして策定されている。
- (委員) 指針を改定するのであれば、プランの改定に先立つ形での改定が必要。プランの改定作業を令和 3(2021)年度に行う予定のため、その前には決めておく必要がある。今年度中に改定の必要性について判断し、翌年度に改定作業を行う形としてはどうか。そのため、まずは先ほどもあったように「指針の勉強」をしていくべき。
- (事務局) そのような形で進めさせていただきたい。次回、第 4 回の協議会を「指針について勉強する」回とし、第 5 回の協議会で先進地の視察研修を実施する形でよろしいか。
- (委員) 異議なし。
- (委員) 指針の改定だけではなく、「市民協働」について問題提起を行ったり、もっと盛り上げていくためにはどうすればよいのかを話し合う機会も必要なのでは。
- (委員) そのような課題についても、指針について改めて理解した上で進めていきたい。